

記 事

◎第2回臨時理事会(昭.29.7.5) 出席者:青木会長, 菊池, 藤井両副会長, 兼重, 立花, 飯田, 中路, 最上, 後藤, 星埜, 片平, 篠原の各理事, 鈴木(大正以降土木史, 金子(土木会館建設), 米田(土木工事写真集, 代小林), 本間(土木工学論文抄録)の各委員長, 中川書記長外各係主任, 議事:1) 記念行事日程その他次のとおり決定。

- a) 記念式日時:昭和29年10月27日(水)10時~12時, 場所:虎の門共済会館, 式次第:i) 開会, ii) 会長挨拶, iii) 記念事業経過報告, iv) 土木学会40年略史報告, v) 来賓祝辞, vi) 感謝状及び記念品贈呈, vii) 閉会,
- b) 祝賀会日時:同日12時~1時, 場所:同上
- c) 記念講演会日時:同日1時30分~4時, 場所:同上
- d) 記念見学会日時:昭和29年10月28・29日, 場所:未定(行事委員会で計画のこと)

2) 資金・記念行事・大正以降土木史・土木会館建設・土木工事写真集・土木工学論文抄録等各種委員会の委員長から委員会の経過報告, 3) 資金募集方法として土木工事写真集の広告は不体裁にならないようにできるだけ制限して, すつきりしたものとしてと小林幹事より希望があり一同了承, その広告の編集もその主旨で幹事をお願いすることとしたいと要望があつたが小林幹事は委員会に諮つた上で善処したいと回答, 4) 代表講演について種々協議したが行事委員会で検討立案すること, 5) 40周年記念行事委員会委員長を藤井副会長に変更する。

◎第3回理事会(昭.29.7.12) 出席者:藤井副会長, 兼重, 立花, 中路, 最上, 後藤, 星埜, 片平, 篠原の各理事, 中川書記長, 椿箸, 朝倉, 堀内の各主任, 議事:1) 6月中行事その他報告, 2) 支部交付金を決定, 3) 40周年記念講演案について協議したが行事委員会に諮り次回で決定, 4) 夏季講習会準備について, 5) 日本工業標準調査会精密機械部会荷重検定器専門委員会臨時委員(使用者代表)に後藤正司君を推薦のこと, 6) 大正以降土木史編集委員会委員に次の諸氏を委嘱すること。

副委員長:金子 柁

委員:山本 三郎, 木村弘太郎, 塚野 忠三
坂本 信雄, 藤野 義男, 林 真治
田村徳一郎, 高野 務, 五十嵐醇三
伊藤 清一, 安成 季隆, 大森 頼雄
寺島 重雄, 武井 篤, 片平 信貴

中路 誠三, 小田 仁, 櫻 修仁
高坂 紫朗, 市浦 繁, 平井 敦
岡本 舜三, 星埜 和, 丸安 隆和
山田 順治, 谷藤 正三, 奥村 敏恵
国分 正胤

- 7) 資金委員会の幹事に大塚勝美君を追加委嘱すること, 8) 毎日新聞学術奨励金交付候補者推薦については最上理事に一任。9) 北海道支部及び中部支部の昭和29年度予算承認, 10) 風に関するシンポジウム(地表風及び風災)の準備委員推薦方を河田, 島山, 藤田の3氏から照会については平井敦君を推薦すること。11) 土木学会略史の編集方針については編集委員会に一任, 12) 国際橋梁構造工学協会常任委員会(本年9月下旬, スペイン国マドリッドで開催)委員平井敦君の代理について, 13) 会員入退会承認。

◎各種委員会

1. 編集委員会(昭.29.7.21) 出席者:最上, 後藤正副委員長, 河上, 矢野(代岩井)両地方編集委員, 左合学会誌抄録委員長, 千秋学会誌抄録委員会幹事, 林, 吉川(代芦田), 森, 今井, 大宮, 齋藤, 鈴木, 長浜, 坂本, 丸安, 久保, 三木, 三上, 小松原の各編集委員, 中川書記長, 徳平幹事, 岡本編集員。協議事項:1) 会誌及び論文集進捗状況報告, 2) 投稿論文及び新規受付論文審査委員の決定, 3) 学会誌抄録委員会よりの申入れによる抄録割当ページ数その他について, 4) 40周年記念土木学会略史について, 5) 40周年記念特集号について, 6) 討議の依頼先について, 7) 39巻9号登載論文を次のとおり予定した。

米谷栄二・佐々木綱:混合交通流における追い越しの確率と交通量算定法, 内田一郎:土質道の表層土に関する調査研究, 荒木正夫:鉛直曲率の影響を考慮したる不等速定流の一解法, 山内豊聰・田中信也:いわゆるヘドロの粘土鉱物について, 村山朗郎・谷本喜一:チタン酸バリウム磁器を用いた加速度計, 本間仁:ダムの流量係数。

2. 学会誌抄録委員会(昭.29.7.8) 出席者:左合委員長, 林, 樋口, 松本, 山口, 金屋敷各委員, 千秋幹事, 岡本編集員。議事:1) 39巻8号抄録用として5篇を決定, 2) 繰越19篇, 新規1篇につき協議, 3) 抄録割当ページ数について, 4) 抄録1篇の長さについて1ページを厳守するよう申合せた, 5) 抄録の中から資料的な要素のものを学会誌へ登載するよう要望あり, 6) その他

3. 編集小委員会(昭.29.7.8) 出席者:後藤副委員長, 大宮委員, 岡本編集員。協議事項:39巻8号学会誌編集について最終的打合せ及び編集方針について協議した, ページ数64ページ。

4. 第12回コンクリート鉄道構造物設計基準委員会(昭.29.7.1) 出席者:吉田委員長,沼田,高橋,最上,友永の各委員,白石,杉木,池原,横山,深谷,田村,川口の各幹事,議事:25条許容応力度“解説”および28条滑動に対する安定について審議。第13回同委員会(昭.29.7.3) 出席者:吉田委員長,沼田,高橋,最上,岡本,友永の各委員,山内,白石,池原,横山,深谷,田村,川口の各幹事,議事:1)28条,2)29,30条(幹事提出原案)及び31条(原案の30条)について審議。

4. 第22回プレストレスト コンクリート委員会(昭.29.7.1) 出席者:吉田委員長,沼田,国分,内山,田原,山田(代池田),伊東(代大野),猪股,宮崎,渡辺(代木村),山崎,友永,三浦,小寺,田村,川口の各委員。議事:1)68条PC鋼線(幹事原案)及び付着応力の審議,2)付着応力については“PC鋼線に付着のある場合”と“ない場合”だけについて記し,許容応力度及び計算方法は省略する。第23回同委員会(昭.29.7.9) 出席者:吉田委員長,沼田,国分,田原,山田,伊東(代大野),山崎,村田,齋島,猪股,三浦,樋口,川崎(代宮崎),渡辺(代木村),小寺,川口,田村の各委員,議事:1)猪股委員からPC鋼線を引張る場合の実験結果報告,2)原案68,69条を審議,第1読会終了。3)第2読会は今までの審議事項を整理し,解説の原案も幹事のところで作製して9月初旬に開催のこと。4)委員長からピーエスコンクリートKKで建設省の研究費によつてPCのContinuous girderの試作試験をやるのでこの委員会の批判並びに援助を申出ているから小委員会を作り研究したいと提案,小委員に田原,川口,猪股,国分,齋島の5氏にお願いすること。

5. 第3回土木工学論文抄録委員会(昭.29.7.2) 出席者:本間委員長,渡辺,嶋,吉川,丸安,伊東(代高野),樋口,西畑(代河島),伊丹,篠原(代小南),千秋,藤野(代佐藤),米元,長尾,谷藤(代神原),岩塚,西村(代田島),和仁(代浜),伊地知,池原,田村(代手島)の各委員,平島,西脇両幹事,中川書記長,議事:1)抄録字数制限の件,i)A,Bとも300字以内,Cは題目だけ(なおA,B,Cの別を一覧表とし幹事より各委員に送付)ii)すでにでき上っている原稿も長いものは委員ができるだけ縮少する。iii)土木学会誌の論文中,そのSynopsisで間に合うものは採用する。委員長が採否を決定,2)水文学を一部門として独立させる件,水文学を第V部とし,委員は井口昌平氏とする。3)原稿整理方針:著者から送付される原稿は7月末日締切,幹事が各部門別に分

け担当委員に渡す。担当委員は部門分類を記入,整理し,幹事に提出する。4)各部門分類の再検討:水文学部門の新設にともなう部門の変更及び各部門の分類に大巾の変更が生じたため新部門分類表を印刷,各委員に送付する。

6. 大正以降土木史企画委員会(昭.29.7.5) 出席者:鈴木委員長,中路,星埜,山田の各委員,議事:1)委員長から副委員長に金子 証君を推薦し一同了承。なお,坂本委員から申出の漁港関係として林 真治君,航路標識関係として藤野義男君と中路委員申出の国鉄建設部関係として小田 仁君を追加すること,2)現在の学会誌位(B5版2200字詰)約1000ページを予定し,各部門別ページ数割当案を決定,次回委員会に提案のこと,3)1000ページとして1000部印刷すれば1冊約1500円,2000部とすれば1000円程度の印刷実費を要するが,できるだけ多く普及するよう努力して単価を下げること。4)次回までに各委員から各分科会委員若干名を考慮するよう依頼すること,5)執筆者には何かの形で編集に従事したことを記録に止め,また薄謝を呈すること,6)次回は7月15日準備委員会を開催すること。

7. 夏季講習会講師打合せ(昭.29.7.5) 出席者:星埜理事,三浦(代樋口),甲野(代),伊丹,山田の各講師,議事:1)前回予定したプログラムの確認,2)講習会題目を“新材料と新工法”とし編集順序を,
(1)フライアッシュ,(2)構造用高張力鋼,(3)異形鉄筋,(4)プレバクトコンクリート,(5)ウエルポイント工法,(6)サンドパイル工法,(7)トンネルの全断面掘削工法,(8)新しい建設機械とする。

3) ページ数は総計150ページ位となる見込であるから定価は300円とし,会員特価は250円とする。

4) 映画(8月26日午後)は次のとおり決定。

佐久間ダム工事(天然色),小河内ダム工事,白色ポルトランドセメント,新しい建設機械,ニュース

5) 見学会(8月27日午後)は次のとおり決定。

- A 日本鋼管川崎製鉄所特殊鋼製作工程
- B 異形鉄筋を用いたハリの試験(オリエンタルコンクリートKK多摩工場)
- C 小河内ダム
- D 石川島コーリング杉田工場(パッチャプラント製作工程)
- E 日野ディーゼルKK日野工場(建設機械のディーゼルエンジン製作工程)

8. 第10回鋼鉄道橋示方書委員会(昭.29.7.6) 出席者:田中委員長,沼田,青木,福田,成瀬,奥村,友永,の各委員,西村,菊池,田島の各幹事,議事:

1) 第2議会終了、追加条項の審議、2) 第3議会を8月2日開催のこと。

9. 第5回土木工事写真集委員会(昭.29.7.13)出席者:山本、木村(代)、大石、小池(代細田)、市浦、岩井(代)、佐藤、坂本(代園分)、田村(代高瀬)、高坂、金谷(代)、榎、林(綱)(代)、林(真)(代吉岡)、塚野(代坂田)の各委員、小林、高橋、金屋敷の各幹事、中川書記長。議事:1) 7月1日開催された小委員会決定した掲載予定写真に若干の補正を加えて整理した結果次のとおりとなつた。

防災(21)、治水(35)、砂防・治山(29)、上下水道(19)、農地(12)、ダム(48)、発電所(39)、港湾(30)、漁港(8)、道路(10)、橋梁及び溶接(63)、都市計画(19)、鉄道(40)、私鉄(13)、飛行場(3)、建設機械(28)、実験及び研究(3)(追加ある見込み)計420

2) 写真集の大きさはA4版としてアート紙を用うる(小委員会決定確認)。

3) 部門ごとに部門における最近20年間の技術の変遷を記述する。クリーム色アート紙とし和英縦2欄1000字(和文)とする。

4) 写真ごとの説明に記載する必要事項は次のごとくであるが、なおその他については各委員の判断に委せる。工事名または工作物名・所在地・主要寸法・完成年月日・企業者・施工者・一、二行の短い解説・その他特に必要なこと。

5) 写真の掲載順序は工学上の小分類(例えば発電部門の取水口・水路・発電所等の)に従い、小分類の中では完成年次順にする。

6) 橋梁の部門は道路橋と鉄道橋・水路橋の分類による。

7) 上表の外に加えるべき写真として次のごとき要望があつた。

イ) 道路橋及び鉄道橋にプレストレストコンクリート橋、ロ) 航空港のDetail1枚、ハ) 国鉄宇野臨港線、ニ) 水門(最近の大型または特殊なもの)、ホ) 研究機関の写真

8) 広告については資金委員会その他から多く載せるよう要望があつたが写真集の体裁を考えるとともに極力ページ数をへらす。大体20ページ程度くらいにしたい。

9) 各委員はさらに写真の順序を整理した上、3)

4) 項の解説、説明を作成し、7月25日までに小林幹事(建設省河川局計画課)に提出すること。

10) なお、さらに幹事の方で整理した後いちじるしい変更が生じた場合には委員会にはかる。

11) 次の会合は月末か来月はじめの予定にしたい。

12) リストは25日以後幹事の方で取まとめる。

10. 第1回大正以降土木史編集委員会(昭.29.7.

15) 出席者:鈴木委員長、木村(代)、谷口、山本(代)、坂本、林(代)、瀬尾、田村(代)、中村、五十嵐、伊藤、大森、寺島、武井(代)、高井、中路、榎、小田(代)、溝口、高坂、市浦、平井(代)、出口、岡本、星埜、丸安、山田、谷藤、奥村(代)、の各委員及び中川書記長。議事:1) 前回準備委員会及び企画委員会の経過報告。2) 分科委員会の構成を次回までに提案すること。3) 各部門の主査委員を次のように決定。

○河川・運河・砂防・治山:それぞれ代理者のため相談の上後日決定。

○港湾・航路標識・埋立・漁港:坂本委員

○農業土木: 田村 "

○道路: 高野 "

○都市計画・地方計画: 五十嵐 "

○軍事土木: 未定(後日決定のこと)

○上下水道: 寺島委員

○土木行政: 武井 "

○建設機械: 片平 "

○鉄道: 中路 "

○トンネル: 高坂 "

○発電水力及びダム: 市浦 "

○橋梁及び構造物: 平井 "

○応力: 岡本 "

○水理: 本間 "

○土性及び土質力学: 星埜 "

○測量: 丸安 "

○土木材料: 谷藤 "

○コンクリート: 園分 "

4) 次回で分科委員を決定の上各部門編集大綱案を作成する。5) 原稿完成時期は大体30年3月31日を目標とする(出版には約6ヶ月を要する)。6) 執筆要項・薄謝の案を企画委員(星埜・中路・山田の各委員)で立案すること。7) 各部門のうちトンネル・ダム・橋梁等是他部門に関連があるので関係の部門から分科委員を出してまとめることとする。

11. 大正以降土木史企画小委員会(昭.29.7.17)

出席者:鈴木委員長、星埜、山田両委員、中川書記長。議事:1) 編集要綱案を作製、2) 各部門予定ページ数案、予算及び分科会費割当案を調製。

12. 第1回40周年記念行事委員会(昭.29.7.20)

出席者:青木会長、藤井委員長、兼重、小林(代金屋敷)、浅野、最上、星埜、篠原、後藤、山本、中路、上野(代叶)の各委員、片平、徳平、荒木、今井の各幹事。議事:1) 青木会長及び藤井委員長から挨拶の後、片平

幹事から今までの経過説明了承、2) 記念式中記念事業経過報告及び土木学会 40 周年略史報告は両副会長にお願いすること、3) 来賓祝辞依頼先について、4) 感謝状贈呈先は次回で審議、5) 名誉員の Mr. Gail A. Hathaway と Dr. John. L. Savage には招請状を出すこと、6) 記念講演は第1案とし最上委員それぞれ内交渉のこと、7) 見学先は佐久間ダムを予定し、篠原委員がスケジュールその他を次回までに立案すること。8) 会長ラジオ講演について、9) 各委員及び幹事の分担は原案どおりとする。ただし上野委員病氣中 叶 清君代理すること。10) 次回は8月4日とする。

13. 第2回大正以降土木史編集委員会 (昭.29.7.27) 出席者: 鈴木委員長, 金子副委員長, 木村(代), 山本(代寺田), 林(代), 藤野(代佐藤), 高野, 河北, 五十嵐, 伊藤, 寺島(代大井上), 武井, 片平(代加藤), 中路, 高坂, 市浦, 本間, 星埜, 山田の各委員, 玉田, 中尾の各幹事。議事: 1) 金子副委員長挨拶の後前回記録を朗読説明。2) 幹事として玉田茂芳, 中尾龍夫の両君を依頼することとし金子副委員長から両君を紹介。3) 編集要綱を審議, a) 各部門または全体に年表を入れることを考慮すること。b) 執筆要項の1) を多少訂正。c) 執筆要項に外国の人名地名は片仮名で書き()内に原語を記すこと, ただし満州・支那・台湾等の漢字国のもはそのまま漢字を用いること。4) 部門の順序について相当意見があつたがこれは検討の上今後の委員会で決定すること。5) 予算案は大体了承。6) 高野委員から道路部門と関連あるトンネル, 橋梁, 土木材料等の部門との分担について意見があつたが各委員今までの経過を説明し, なお小委員会で検討することとし8月7日午後1時から下記の委員で打合会を開き充分協議すること。

道路	高野委員	鉄道	中路委員
トンネル	高坂 "	発電水力	市浦 "
土木材料	谷藤 "	橋梁	平井 "
	星埜 "		

7) 分科会幹事をそれぞれ推薦せられたいこと。8) 分科委員未定の部門に決定方促進すること。9) 各部門の内容目次を8月20日までに学会事務局へ提出すること。10) 次回は8月末開催の予定。

◎その他

1. Major General Claude H. Chorpeneing と Brigadier General Frank O. Bowman 招待会 (昭.29.7.30 日本工業クラブにおいて) かねて名誉員 Mr. Gail A. Hathaway からの紹介で日本の座間に最近赴任した Mr. Chorpeneing と極東軍の土木担当の Mr. Bowman の両氏はいづれも水源開発, 港湾等の

水の関係の Engineer であるから出席者もその方面の方々とし, 青木会長, 大西前会長, 安芸皎一, 本間仁, 黒田静夫, 市浦 繁氏等 Mr. Hathaway から紹介状を受けた人々と懇談会を開催, お互いに胸襟を開いて敏談した。

2. 第4回応用力学連合講演会 (9月1日~3日) のプログラムができたので会誌に登載 (土木は19編)

3. 日本優秀発明振興協会 (理事長大野 巖) から特許関係課税撤廃に関する請願書と同協会の趣意書の送付を受けた。

4. 日本学会議事務局から International Federation for Housing and Town Planning Congress (Sept. 19~25. エディンバラにおいて) 開催に対する招請状の Copy を回付された。

5. 日本気象学会の理事就任の挨拶と分担について通知があり, 協力方依頼があつた。

6. 溶接研究連絡懇談会 (昭.29.7.23) かねて STAC から要望されていた表記研究連絡を推進するため溶接学会が世話役となり当学会からは奥村敏恵君を推薦, 同君出席の上懇談した。

支部だより

1. 北海道支部 1) 昭和 29 年度役員決定報告

支部長	田中 彦敏
幹事長	三丁目喜一郎
商議員	板倉 忠三, 中村 俊雄, 高田 実 横道 英雄, 倉田 宗章, 松木 憲司 古関 正孝, 久世 秀明, 瀬藤 智雄 牧野 茂, 河原清一郎, 柳内 泰夫 小崎 弘郎, 永井 寛, 安藤 道夫 中村 稔, 宮前 喜蔵, 西島 国造 早田 英夫, 丸島 正男,
常議員	上戸 斌司, 今 俊三, 三丁目喜一郎
幹事	菅原 照雄, 伊藤 健二, 古山 剛三 市原 薫, 秋谷 元, 能勢 文次 佐久間純一, 千葉 静男

事務所所在地 札幌市北3条西6丁目 北海道庁
土木部次長室

学術資料編集委員長 真島 恭雄

学会誌地方編集委員 三丁目喜一郎

2) 同支部 29 年度行事予定 6月 役員会, 7月 見学会(古平トンネル工事) 8月 技術資料9号, 9月 講演会, 10月 見学会(糠平電源工事), 11月 講演会, 12月 技術資料, 1月 講習会, 2月 研究発表会 3月 役員会, 総会, 技術資料 11号

2. 東北支部 1) 第1回見学会 (昭.29.6.12~13)

参加者: 73名, 猿ヶ石, 胆沢 両ダムの見学会を執行

し、両日とも好天に恵まれ行程滞りなく有意義に終了した。

2) 同支部講演会並びに講習会 (昭.29.6.30~7.2)

参加者: 350 名, 東北大学において行われたが講師及び題目は次のとおりである。

東北の港湾について (天竺良吉), 気象と洪水について (本多弘吉), 洪調水節について (小林 泰), 電力の現況と只見川電源開発計画について (北松友義), 東北本線野内川橋梁架設工事について (高橋 寛), 道路工事の技術と理論 (森 豊吉), 復興都市計画について (五十嵐醇三), 近時のコンクリート強度について (内田季郎), 河川改修計画並びに工作物の設計について (山本三郎), 災害復旧工法について (小池 蒼), 労働問題の趨勢 (富田広四), 機械化施工特にグレーダーによる道路補修について (齊藤義治), 進駐軍工事について (小長井喜久雄), 土木一般について (第 583 技術部隊 Walter Bosky 少佐)

3. 中部支部 幹事として信州大学教授青山武雄君を追加委嘱した。

4. 西部支部 夏季研究発表会 (昭.29.7.10) 九大工学部特設教室において) 参加者約 100 名, 講演者及び題目は次のとおり。

アーチダムの施行測量 (竹下教男), 福岡県における最近の瀝青系舗装 (川野博司), 変断面剛構の解

法 (石川時信), アーチダムの振動応力の算定 (小坪清真), 小型水路によるセキの実験 (吉高益男), 比重計による河海水混合状況簡易測定法 (若木三夫), 河川における洪水波の伝播 (篠原謙爾, ○樺東一郎, 佐藤幸甫), 連立 3 項方程式の一解法 (塚本正文), 壁体に作用する土圧 (松尾春雄), 杭の支持力 (高田京一), 杭の支持力試験 (高田京一, ○白川久一), 直接一面剪断による粘土のリカパリングに関する実験的研究 (○山内豊聰, 寺尾喜雄), 堤防の貫入試験結果 (副島 建), 土の粒径と膨水締固めの関係 (園田頼孝), 鉄筋コンクリート煙突固有振動周期 (中村 清), ソイルセメント (内田一郎), 骨材の不連続粒度について (水野高明), ルーフシールドによるトンネルの施工 (住友 彰), 住之江橋橋脚工事における水落函掘付とその事故復旧 (東島 栄, 矢野一徳), 応急用組立橋梁について (中野孝行), 海底部断層破碎帯の工事 (松尾寿一), 遠賀川堤防の漏水防止工 (山田専一), 上椎葉ダムの基礎処理について (楠元孝夫)。

第 6 回幹事会 (昭.29.7.10) 出席者: 熊川支部長, 武田, 下津, 上田, 乙藤, 和田, 大津 (代古賀) 各幹事外柳川君, 議題: 1) 夏季講習会について日時を 8 月 21~22 日とし場所は阿蘇内牧と決定, 講師演題について, 2) 矢部川鉄橋架替工事見学について。

昭和 29 年 7 月 分入退会報告 (29.7.1~7.31 現在)

1. 入 会	205 名 (正 68, 准 67, 学生 70)
2. 退 会	10 名 (特 3 級 2, 正 5, 准 3)
3. 転 格	29 名 (特 1 級より特 2 級 1, 准より正 25, 学生より准 3)

会 員 現 在 数 (29.7.31 現在)

名誉員	賛助員	特別員 1 級	2 級	3 級	正 員	准 員	学生員	合 計	増加数
22	16	32	75	151	5 213	5 995	1 433	12 937	195

昭和 29 年 8 月 10 日 印刷
 昭和 29 年 8 月 15 日 発行

土 木 学 会 誌
 第 39 卷 第 8 号

定 価 100 円

編集兼発行者 東京都千代田区大手町 2 丁目 4 番地 中 川 一 美
 印刷者 東京都港区赤坂溜池 5 番地 大 沼 正 吉
 印刷所 東京都港区赤坂溜池 5 番地 株式会社 技 報 堂

東京中央郵便局区内 千代田区大手町 2 丁目 4 番地 電話 和田倉 (20) 3945 番
 4078 番

発行所 社団法人 土 木 学 会 振替東京 16828 番